

C-51 ギャザリングによるシルエットについて

都立立川短大 石毛フミ子
○岡田 陽子
桜美林短大 菅原由紀子

1. ギャザによる効果は単に分量よりもそれによって作られるドレープ及びシルエットにあると考えられる。今回はギャザ効果にもっとも関係の深い要因について再検討した。

2. 実験材料 種々の材質の中から特に厚さの異なる布18種。

実験項目①ギャザ分量を一律に1.5倍にしたシンプルなモデルによるシルエットの測定。②ギャザスカート1/2大のモデルによるシルエットの測定。

①a) ギャザ分量2/3倍の場合

①b) ギャザ分量1.5倍の場合

①c) ギャザ分量2倍の場合

③ ①②それぞれについての経過日数によるシルエットの測定。

3. ①厚さ、重量についてはシルエットとの相関はみとめられず、剛軟度においてきわめて高い相関がみられた。

② ①b)において剛軟度との相関はもっとも高く、①c)①a)の順であった。

③ 5週経過後でシルウェットはほぼ安定し、①において
いは5週後のものは直後の77~87%程度であった。②
の②において直後の98%程度、④⑤において直後の
70~95%程度であった。